ギルス性腫瘍

使用器具

デフテラが生み出すギルス性腫瘍。黒と黄色の2色が存在するが、黒いほうがバイタルへのダメージが大きい。また、大きな腫瘍からは小さな腫瘍が発生するため、焼却は、黒くて大きな腫瘍から優先して行なうこと。

●ギルス性腫瘍の手順

❶ レーザー………デフテラが生み出す腫瘍を焼却

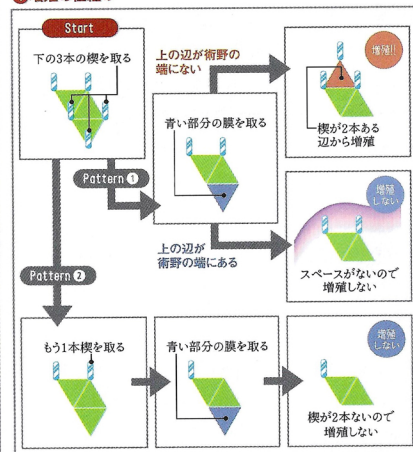
❶レーザー LASER

ほかの腫瘍と違い、レーザー照射のみで処置完了。ヒールゼリーによる治療を行なう必要はない。

テタルティ

使用器具

患部を石のように硬質化させ、臓器不全を起こすギルス。三角形の膜と周囲の楔をすべて摘出することで処置を行なうが、膜をはがす際に楔がふたつある辺から、新たな膜が発生するという特徴を持つ。また、膜が1枚だけになると、楔がなくてもその周囲3辺に増殖する。抜いた楔は時間経過で再生するが、膜の数が少ないほど早く復活するため、最後は膜を2枚残し、楔を全部復活させたあと一気に摘出するという工程が必要となる。右図の解説をよく読み、増殖の仕組みを理解してから処置に当たろう。なお、気体となって移動するテタルティを術野外に逃がすと、バイタルが大きく減少する。発生したらすみやかにドレーンで吸引しておこう。

➔増殖の仕組み

術野の端やすでに膜がある場所には増殖しない。これを利用して、術野の右下から左上を目指してはがしていくのが基本。一辺に楔が2本存在しないよう、楔を抜いていくことも重要となる。

●テタルティの手順

❶ ピンセット ……楔を抜く

❷ ピンセット ……膜を取り除く

❸ ドレーン ………気体を吸引

トリーティ

使用器具

有害な抗原を無限生成する毒の塊。トリーティは、同色の血清を本体に直接投与して駆除を行なうが、一定時間内に3体すべてに血清を打たないと、その効果は現われない。迅速かつ的確な投与を行なおう。

●トリーティの手順

❶ 注射器 ………同色の血清を各個体に連続投与

❶注射器 SYRINGE

トリーティ出現まえに、いずれかの血清をあらかじめ吸引しておけば、出現後すぐに投与を開始できる。

ペンプティ

使用器具

臓器表面に有害なペーストを発生させるギルス。術式は、まずペーストのモヤにナノマシンを投与してペンプティのコアを露出させるところから開始。そのあとはコアが消失するまでレーザーを照射し続けるのだが、途中でペンプティコアから、裂傷を作る切り裂きコア、腫瘍を併発させる小腫瘍コア、回転してバイタルにダメージを与える回転コアという3種類の小コアが5体ずつ、ランダムな順で生み出されてくる。それらもすべてレーザーで焼却していこう。なお、術中に小腫瘍および出血線が発生した場合は、すみやかに処置をすませること。

●ペンプティの手順

❶ 注射器 ………モヤにナノマシンを一定量投与

❷ レーザー………ペンプティコアを照射

❸ レーザー………切り裂き子コアをすべて焼却

❹ レーザー………小腫瘍子コアをすべて焼却

❺ レーザー………回転子コアをすべて焼却

❸レーザー LASER

切り裂きコアの出現場所は決まっている。その場所を覚えていけば、レーザー焼却が容易になる。

❹レーザー LASER

両サイドの小腫瘍コアは、1体ずつ撃つのではなく、コアとコアのあいだを狙えば、2体同時に焼却可能。

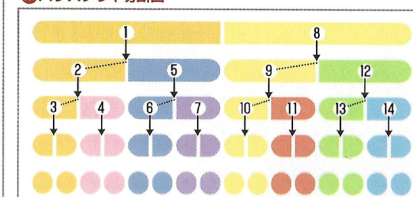
❺レーザー LASER

回転コアはペンプティコアの中心を照射し続けていれば焼却可能。逃したら回転軌道上を照射しよう。

パラスケヴィ

使用器具

臓器内に潜って患部を移動するギルス。不用意に摘出すると大出血を招くので、暴れても害のない大きさまで切断するという術式が有効となる。右図を参考に切断を繰り返し、最小サイズの16分の1にしてから摘出を行なおう。ただし、パラスケヴィは切断すると出血線を作って分裂し、さらに一定時間で臓器内に潜ってしまう。そのため、この術式ではパラスケヴィの尾の部分にレーザーを照射して、とにかく停止させるのを最優先とすること。出血線の縫合やバイタルの回復は、パラスケヴィを停止させている状態で行なえばいい。

➔パラスケヴィ切断図

むやみにパラスケヴィを増やすのではなく、まずは①～③と切断し、■色部分のみを摘出。次に④を切断して■色部分を摘出というように、その数を制限しよう。同様に■、■、■、■、■、■各色の順で切断、摘出を行なうといい。

●パラスケヴィの手順

❶ レーザー………尾を照射して挙動を停止

❷ メス……………半分のサイズに切断

❸ 針と糸 ………発生する出血線を縫合

❹ 注射器 ………バイタルを回復

❺ ピンセット ……最小サイズのパラスケヴィを摘出

❺ピンセット FORCEPS

摘出もレーザーで動きを止めてから行なう。パラスケヴィの頭の部分を狙ってつかむようにしよう。